

第3回水と緑の森づくり会議（H30.3.9） 議事概要

（1）平成29年度水と緑の森づくり事業の実績見込み及び平成30年度水と緑の森づくり事業の予算概要について

○中島委員

- ・H29年度の再生の森事業予算残額はどうか？
→（事務局）水と緑の森づくり基金として次年度に積み立てられる。
- ・ノベルティの年間製作数1,000個は適当な数か？イベント来場者に対して少なく感じる。
→（事務局）これまでに製作したノベルティやシールもあり、来場対象によって配り分けている。
- ・主催イベントの開催時期や対象校はどうやって決めたのか？
→（事務局）主催イベントの指導者を炊飯作業等に慣れている団体職員にしたため、日程調整に時間がかかり開催時期も遅くなってしまった。対象校は緑の少年団活動やみーもスクールに取り組んでいる森林教育に積極的な学校を対象とした。
- ・学校での普及活動は、先生の積極性によって受益する子どもたちに格差ができる。より多くの子どもたちが公平に学べる機会をつくってほしい。

○伊藤委員

- ・再生の森事業とみーもの森づくり事業の竹林伐採の違いは？再生の森の竹林伐採の場所はどこでもできるのか？
→（事務局）再生の森は人工林に侵入したり、家屋等に接近する竹林を事業体に委託伐採する経費を支援するもので、県と森林所有者が協定を結んで実施している。提案型のみーも事業とは違う。再生の森は森林所有者からの要望を事業体が聞き、1月ごろに地方機関で取りまとめたものについて県がヒアリングを行う。採択条件に合わないと実施はできない。

○和田委員

- ・学校での取り組みは管理職の意識の高さで差が出る。校長会で周知してみてもは？
→（事務局）県緑化推進委員会で、緑の少年団活動をはじめとした学校への支援事業を持っているので、連携してやっていきたい。

○白築委員

- ・山間部と都市部の子どもの差は大きい。学校は忙しいので、地域・公民館レベルで体験できるとよいのでは。地域の高齢者の生きがいにもつながる
→（事務局）みーも事業が公民館レベルに降りていかないことが事業課題ととらえており、今後取り組んでいきたい

○川上委員

- ・みーも事業の認知を広めていくことが大事。所有者負担のない再生の森事業で、木を搬出できそうな場所でも切り捨て間伐を実施している。一方で個人負担のある造林事業にも切り捨て間伐があるので、事業地をきちんと選定するなど公平性を持たせてほしい。使える木を出さないのはもったいない。
→（事務局）施業地は地方機関で事前確認しているが、そういう例もあるかもしれない。今後気をつける。

(2) 平成30年度みーもの森づくり事業の採択に係る審査について

○川上委員

- ・どの提案もすばらしい。

○伊藤委員

- ・同じ地域が続けて提案していて、知っている人だけ得している印象がある。集落の人だけががんばるのではなく、次の世代や周囲を巻き込んでいくことを課題にする必要があるのでは。
- ・保育園に遊具を設置する取り組みはよいが、一方で公平性や安全性の課題がある。
- ・イベント終了後の竹の灯籠はどうやって処分するのか。

○中島委員

- ・やりたい事業ありきで、そこから目的を作っているように見られる。事業をやったことで根本的な課題が解決できているのかが不明。
- ・企業の社会貢献のために、企業の提案の場合は自己負担はあってしかるべき。

○和田委員

- ・史跡や遺構を整備する取り組みは評価した。今整備しないと次世代につないでいけないので、単なるイベントより高評価。
- ・同じ団体が毎年申請していることは、やる気は評価すべきだが安易に提案している感じがする。事業から漏れた地域に対して、周知が必要。

○白築委員

- ・過疎地域であるほど底力を感じる。

○和田委員

- ・学校林のある学校へ営業に行くなど、行政もどんどん掘り起こしをすべき。市町村の広報誌に載せるなどしては。
→(事務局) 学校林は県緑化推進委員会で情報を持っており、助成金を使っている学校もある。相談しながらアプローチしていきたい。

○伊藤委員

- ・教育委員会との連携はあるのか？三瓶の木工館イベントに出展して、木のある所にみーもありというイメージを作っては。特に全国植樹祭開催までの2年間を重点的に。
→(事務局) 教育委員会にもみーも事業の案内は送っている。良いアイデアをいただき感謝する。

○中島委員

- ・実施報告書が他の団体の目に触れることはあるのか？学校も含めて、情報交換ができるようにしては。
→(事務局) 報告書には個人情報が含まれているのでそのまま公開はしていない。一部抜き出してHPで紹介はしている。

○和田委員

- ・提案書のサンプルがあるとまねできてよい。

○白築委員

・よい例はまねした方がよい。毎年継続して申請している団体については、1年1ポイントを加点していき、優良事例として他の団体がまねできるようにしては。

○伊藤委員

・活動で作ったタケノコやキノコを売った場合、自主財源をポイントに変えては？

(3) 1年間委員を務めた感想

○中島委員

全県でたくさん取組がされていることが知れたこと、委員の様々な意見が聞けたことがよかった。おやこ劇場での仕事を通して、森づくりについて子どもたちに伝えていきたい。

○和田委員

何より水森会議に参加することが楽しかった。頑張れば地域がよくなることが分かった。

○白築委員

島根の良さを再発見できたし、今後も周りに伝えていきたい。

○川上委員

今ある山は50年前の先達のおかげで伐ることができる。次の世代に森の大切さを伝えていきたい。

○伊藤委員

税金をどう使っていくか決める現場に立ち会えたことがうれしい。事業を周りにもっと知ってほしいし、西部を中心に広め、支援していきたい。